# 北海道医歌人会詠草

## 婦唱夫随

札幌　古屋　統

ガソリンの値段表示に老妻が神経尖らすイランのニュース
スタンドのセルフ給油に妻慣れて運転席のわれは動かず
マーケットカートを押して妻に付く夫唱婦随か婦唱夫随か
わが嗜好優先させて食品を漁れる妻に唯々としたがう
年金のやり繰り妻に任せいてＡＩＪ報道に身の毛がよだつ

## 幼馴染

美唄　吉村　誠治

面影は子供の頃のそのままに胃瘻なれども笑顔を返す
あれこれと幼馴染のこと語らへば逝きし友多く涙出てくる
それぞれに兄弟姉妹多かりき昭和の初めに我等生まれて
降り継げる雪の始末に再発す注射受けたる左膝を撫づ
友訪へば見上げる雪に覆はれて玄関へのアプローチ洞窟の如し

## カラマツ

札幌　浜島　泉

カラマツの落ち葉に気づき振り仰ぐ秀樹ならねど風格ある木
炊飯器未操作なりし手作働す湯気立つ様と香りに興ず
花嫁の父たる人の傍らに母あらせましこの日のみにも
面立ちが娘似の客バス降りて照明暗き小道に入りぬ
年下の患者の死亡診断を書く初めてのことにあらねど

## 新生

釧路　児玉　昌彦

ずっしりと西瓜のごとき重量感赤子の頭こわごわと抱く
声たてて笑う赤子を取り囲み昨日出来ぬこと今日出来たぞと
最新のパソコンよりも優秀な赤子の脳はいま始動中
しげしげと目をそらさずに見る瞳「この子はきっと頭良い子よ」
「ワウ・ワウ」と言葉にならぬ発声が絆を通して言語とならむか

## 陶作る人

旭川　稲積　文子

豊かなる感性故かふと漏らす鋭き言葉と穏やかな顔貌
心かよう言葉など何も持たなくて陶焼き続け世を去りゆきし人
陶と歌とそれが命なりと言いて残した壺ひとつ柵に清しく並ぶ
何時よりか彼の人の歌集を師となして細々と歌を作る心湧かしつ
返りくる言葉怖れて逆らわぬ寡黙を刻む長き空間

## 神様のサイコロ

江別　三宅　浩次

神様がサイコロを振る残酷になぜこの人たちが不幸になるの
身障の身を粉に働き定年の挨拶に来た独身（ひとりみ）の女（ひと）
一枚の辞令書なれど人生の先まで決める紙の重さよ
贈り物に神様って不公平ふと漏らした幼子がいた
もどかしい想いのままにユニセフのパンフレット見る子らは笑顔で

## 山雨来らむとして

札幌　山口　康徳

人類の倦むを知らざるいさかひを鎮めるごとく草木色づく
熾烈なる戦随所に起り得て閃光（ひかり）眼先にみる感つよし
強国の丁々発止のかけ引きは智力財力限りなく失（う）す
とつくにのトップ変るやなつかしき二島（しま）のもどるや古きわが家に
菜（な）の花に桜・連翹・梅の花人よろこばせむと競ひ咲きゐて